

新任学芸員からのごあいさつ

加藤 涼雅

自己紹介

令和7年4月から配属になりました、加藤涼雅と申します。地質担当で、専門は古脊椎動物、特に中生代の海生爬虫類の研究をしています。化石を通じて自然に興味を持っていただけるよう尽力していきます。よろしくお願ひいたします。

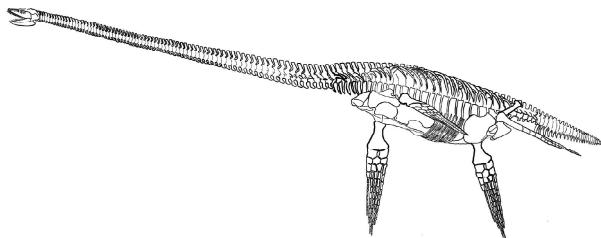
来歴や研究

出身は埼玉県入間市ですが、転勤の多い家庭だったので、北は宮城県から、南は沖縄県まで色々な地域に住んだことがあります。特に出身地埼玉県と、親戚が多い福島県には特別な思い入れがあります。

幼い頃から古生物はもちろん、生き物が大好きで、動物園や博物館を訪れたり、虫取りや化石採集をしたりしていました。また、高校では生物部に所属して川越を中心に自然調査をしたり、生物実験をしたりしていました。そして、大学では白亜紀の海生爬虫類のひとつである首長竜について研究していました。

首長竜化石は、世界中で広く報告されており、日本でも北海道から九州まで、全国的に報告があります。私は、北海道の白亜紀の海の地層（蝦夷層群）から発見された首長竜化石の記載（産出情報や骨の形態学的特徴の記録）をしました。古脊椎動物は基本的に骨の特徴から種を同定していますが、私が研究で扱った個体は、骨が未発達な幼体でした。そのため、特徴を見出すのに、まずは首長竜の成長について調べる必要があります。

首長竜は多くが一種に一標本のみですが、同種でたくさんの個体が報告された種がいます。その種の異なる成長段階の標本を比較し、成長に伴う骨格の形態変化を調べました。その結果、首長竜は肩や腰の骨が成長した後に、背骨が胴体側から頭と尾に向かって徐々に発達していくことが分かりました。また、そのことから私の研究した個体は肩や腰の骨が発達途中で、幼体の中でも未熟であることが分かりました。未発達な部分の多い幼



首長竜の仲間、エラスモサウルスの全身骨格

体なので新種！とは報告できませんでしたが、どの首長竜とも違う特徴がいくつも見られたので、これからもまだまだ話題の絶えない化石です。

化石以外への関心

もちろん幼い頃からの好きが高じたものもありますが、化石から生きていた姿を想像したりするのが楽しくて、古生物の世界に飛び込みました。化石以外に、骨格というものの自体に興味があります。例えばヒトとキリンの首の骨の数は同じって驚きませんか？そんな小さな驚きを繰り返すうちに、いつしか専門書を漁るようになり、骨格標本や模型が棚を埋めるようになりました。

トピック展について

令和7年6月17日から10月5日まで開催のトピック展「標本制作の技～地質編～」を担当しました。本展示では、化石の種類やでき方、博物館資料になるまでの過程について、イラストや標本を使って解説しています。

(かとう りょうが・学芸員)



トピック展「標本制作の技～地質編～」の様子